



THE ROTARY CLUB

OF YAMATO-NAKA

# 大和中ロータリークラブ会報

LET SERVICE LIGHT THE WAY

奉仕の灯で道を照らそう

R.I 会長 James L. Bomar Jr.

第 77 回 例会 1979 年 12 月 27 日 (木) 晴 第82号

出席報告

会員数	出席数	出席率	前回の修正
30名	27名	90.0%	100%
欠席者 木崎, 伊藤(正), 伊藤(英)			

芦田会長テーマ 友愛と協調

司会 芦田会長

3クラブ 合同例会

## ゲスト

塚本 勉 分区分代理, 飛鳥井 豊君 (厚木)

## 会長報告

。本日は私達, 大和中クラブがホスト役をお引き受けし3クラブ合同例会を開催いたします。なにせ初めての事にてご不便のこと, 不行き届きの点もあると存じますが, お許しを頂きたいと思ひます。奥様方には日頃かけの力となつてご協力を頂いている事に対して感謝しております。今宵はごゆっくりとお寛ぎ頂きたいと思ひます。ではご家族の紹介をさせていただきます…………。



## 3クラブ合同 親睦会

芦田会長 挨拶

これから3クラブ合同親睦会に移ります。今日は暮のお忙しい所, 多数ご出席頂きまして有難うご座居ます。やゝ上り気味ですが一言ご挨拶を述べさせていただきます。

私達 大和中クラブはこの4月には認証状伝達

## 幹事報告

。1月3日は日本古来の祝日のため休会です。ロータリーの勉強もお忘れないように, 従つて次の例会は1月10日(木)となります。

ソングリーダー 辻 国明君  
「奉仕の理想」

本日のプログラム 1月10日  
「年頭あたり」芦田会長 「半期報告北砂幹事」  
次週予定 1月17日(18:30)  
クラブ協議会 北砂幹事(医療センター)

1. 真実かどうか  
2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか  
4. みんなのためになるかどうか

事務所 : 大和市中中央1-5-40  
及び 大和市商工会館内  
例会場 電話0462(63)7926

例会日 : 毎週木曜日12時30分より  
会長 : 芦田 敬治 副会長 : 佐藤 実  
幹事 : 北砂 富三 会報委員 : 上田・竹之内・郡司

式を行う事が出来ましたし、その後、あぶない足取りですが、なんとかロータリークラブらしき活動にも及ばずながら参加することが出来ました事は大和クラブ・座間クラブの諸先輩方の心からのご指導とご鞭撻によるものと深く感謝しております。特別代表並びにエイドの方々の具体的なご示唆を頂き、文字通り無我夢中で頑張っ参りました、1979年はロータリーに明け、ロータリーに終わったような感じを持っておりますが、来るべき新しい年には少しゆとりのある地に着いた活動を続けて行きたいと思っております。

1980年がロータリーに取りましても、又会員各位にとりましても、より良い年になることを信じて挨拶の言葉とさせていただきます。有難うご座居ました。

#### 事務局に感謝

常にニコヤかに事務業務を担当して下さいている高橋さん、鈴木さんのご両人に感謝いたします。今後よろしく。

#### 塚本分区代理 乾杯

本日、大和中クラブのお世話によりまして盛大に3クラブ合同例会を持つことが出来ましたこと心から嬉しく存じております。皆様方の益々のご発展とご健康を祈念いたしまして乾杯

小走りに過ぎた1年間の年の瀬を迎えた満足感と喉の乾きを癒やしてくれるビールのうまさ

あちらの隅では新らしい友を得て、こちらのテーブルでは旧交を暖めながら賑やかに談笑の輪が広がって行く。

先づ片野(座間)会員のご紹介でマジックショーの開演、盲腸をとらしたら日本一の飛鳥井君(厚木)、奇術においても日本一です。どうぞ……華やかな会にお招きを頂き有難うご座居ました。肝臓と胃ぶくろを少し休めてお耳とお目めを私の方へ向けて下さい。お囃子に合わせて赤、ミドリ、白、黄のハンカチが出るわ、出るわ。曲が変わり次郎長節よろしく、富士の高嶺に……原子バクダン海よりこわし、今処にあります未広も科学の力で思うがまま 次に出ました茶椀が2つ花咲か爺さんじゃないけれど大判、小判の音がする……

と浪曲奇術にしばし時を忘れる。

そして大和クラブの皆さんにより歌謡の世界へと誘われたのであります……赤い上衣のマドロスさん、秋田炭抗、ハッチン節し、津軽三味の音とともに正調、秋田おぼこ、朗朗と泣かせる浪曲子守りうた……。再び座間クラブへ、バタヤン風ウエスタンによる軽快なリズム、そして漢詩を吟唱し古代の朗詠の流れにしたことしばし……時はめぐり我が大和中クラブへ Hammond のリズムに乗って Yesterday。早瀬躍る光に揺れていた君の瞳あの人はもういない、女性コーラスに会場のザワメキも静まり、広瀬川流れる岸辺 思い出は帰らず。

Bye Bye Bye 私のあなた 私の心 私の命 my Love 男性中年合唱 大いに唱い上げる。

こぶし咲くあの丘へ 帰ろかなあ 辻 昌夫君そして会場一体となって、ステージの底も抜けんと踊る、太ッチョロータリアン。

ロータリーは交響楽 Sym phony であるという実感にひたりながら、楽しい一時を過ぎたのである。過ぎ行く 1979 年、ご苦労さん、そして輝やかしき 1980 年へ明日の日の為に乾杯。



## ロータリー情報

### 初めて飛んだ人

おおよそ75年前のことだが、後にロータリアンになった一人の冒険家が初めて飛行機を操って空を飛ぶことに成功した。その人は？ オービル・ライトである。彼は、1913年に、米国オハイオ州デイトン・ロータリー・クラブの会員となった。その同じ年に、国際ロータリーの後援による最初の大規模の災害救援プログラムが、米国オハイオ州とインディアナ州の水害罹災者の救恤に当たったデイトン・ロータリークラブその他のクラブのために行なわれた。

### 世界理解週間を特に注目させる

#### ように催すこと

2月の第三週（17-23日）は理事会によって、奉仕の第四部門：「奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の世界的な親交によって国際間の理解と親善と平和を増進すること」に特に注意を集中させる世界理解週間として定められている。皆さんのクラブがこの週間を催すのに役立つため、そのプログラムのアイデアを特に紹介した印刷物を12月中に配布する予定である。

1980年の世界理解週間には、国際ロータリー創立75周年記念日（2月23日）が含まれるので、この週間は世界の全ロータリー・クラブが国際奉仕を合同で、かつ、同時に実例を挙げて示して見せる機会として特筆される時である。各クラブはこの週間に、75周年を記念祝賀することと関連したその国際奉仕の中で、業績のあったものを何か挙げて、注目させるようにしなければならない。そのような例として、組み合わせ地区およびクラブ・プログラムを通して行なった活動、国際的な青少年交換、教育機関や国際的な研究団体、あるいは、外国訪問による国際奉仕が挙げられる。

各クラブはそのプログラム、特に、世界平和のための構成要素としての国家間の理解と親善を増

進することを強調する世界社会奉仕を中心にして作成されたプログラムを広報するよう、要望されされている。中央事務局はこのような活動をできるだけ発表して、広く知らせるために、それらを示すニュース記事と写真の入手を切望している。

### アフリカのクラブが幼児の生命

#### を救うために協力した

アフリカの二つのロータリー・クラブによる機敏な行動が、有名なクリスチャン・バーナード博士による心臓手術を受けたある幼児の生命を救うのに役立った。

ザンビアのキトウェ・ロータリー・クラブは、その幼児の男の子一生まれてやっと15カ月しか経っていないクワメ・アイイバーちゃんとその父親のために、彼等が住んでいる町から南アフリカのケープタウン市にある病院までの航空料金を払ってやった。また同クラブはその仲間のクラブ、南アフリカのオレンジ自由州ブルームフォンテン市のロードザール・クラブに、その幼児が心臓の切開手術を受けるために入院する期間、その幼児の父親のための宿舎を見つけてくれるよう、助力を求めた。この要請を受けたロードザール・クラブはその宿舎を見つけてやってくれたばかりでなく、また、その幼児が回復に向って入院していた期間の入院費用も払ってやった。

ロードザール・ロータリー・クラブのウォルター・ヘンシュエル元会長は、この感動的な協力の物語について、次のように語った。

「援助の緊急要請の問題が起った時、ロードザール・クラブのわれわれは、キトウェ・クラブがわれわれに助力を求めたことを嬉しく感じました」

「われわれは要請を受けてから数時間の中に、次のような返信のテレックスを送ることができました一喜んで助力する。ロードザールが入院費用を引き受けるつもり。父親の宿舎は当初の期間、ジョージ・ファーレイ元地区ガバナーに世話して貰うことに話がついた。以後のことは心配に及ばず」

ウォルター元会長は続けて、続のように述べた：「皆さんはこの種のことを世界社会奉仕とか、明白な国際奉仕とか、あるいは、組み合わせクラブの奉仕とかと呼ぶかもしれませんが、それは取るに足らないことであります」

「「そういうことは皆同じことに結論されるものであります。それはわれわれロータリアンたちが行おうと誓約している奉仕の種類であるのです。こういうことを行なうことは、極めて必要であります。レソトや南アフリカ、あるいは、トランスケイにおいて、こういうことを行なうことは、われわれ全員にとって極めて必要なことであります。援助を与えますと、満足感が得られるものです」

「皆さんは次のこと、皆さんはロータリーのためにこういうことを行なっているのではないということ—ロータリーは単に皆さんに、何処の困っている人にもこのようなことを行なってやる機会を与える媒介物に過ぎないものであるということをお忘れなさらないで下さい」

(1979年8月号ロータリーダウン・  
アンダー誌より要約)

### 出典はといえば

R.I.の記録保管所に、木製のプラークを傍らにしたポール・ハリスの写真がいくつかある。現在、この有名なプラークは、事務局内のポール・ハリス室の彼の使っていた机の後ろに掛かっている。それには「千人の友人をもつ者には、いなくてもよいというような友人は一人もない」と書かれている。米国の著述家、ラルフ・ワルドー・エマソンの言葉とされているこの文句の意味を、ポール・ハリスはいつも味わっていたのである。この言葉は、シカゴでの生活が始まってから間もない頃のポール・ハリスに影響を与え、彼がその小著「私の歩んだロータリーへの道」に書いているように、ロータリーの創立に重要な役割をつとめたのであった。しかし、この言葉の出典はといえば、これは、その発想の多くを東方の哲学に求めたエ

マソンが、7世紀の、マホメットの女婿、アリ・イブン・アブ・タリブの金言を逐語的に引用したものである。



### ロータリーでの貢献

「一年のうち何かの時に、われわれは、何かで貢献をしようとか、贈り物をしようとか考えることがある。われわれには、それぞれ、個人で、ロータリーのために何かをしようと思えるようなことがあるのではないかと思う。われわれのなし得る最も大切な貢献の一つは、ロータリーの会員として推薦できるようになりっぱなし人物はいないかと地元の社会や自分の友人仲間を見回してみることである。これは委員会に任かせておけばよいというような仕事ではない、ということをお忘れないうでいていただきたい。われわれ一人びとりのこうした協力が、ロータリーがその規模と有用性を、われわれ自身の土地にも、また全世界にも伸ばしていくのを助けることになるのである」。

—あるロータリー・クラブの会報より

